文化・経済フォーラム滋賀 News Letter

第９号（2021 年 12 月）

令和３年度は、事業方針に改めて『文化力』を地域活性化のキーワードに、滋賀の未来を考えるプロジェクトの実施を掲げました。「文化で滋賀を元気に！」するプロジェクトでは、発足以来継続している「文化で滋賀を元気に！賞」の表彰に加え、これまでフォーラムで発表してきた提言『地域とアートをつなぐ』というテーマを踏まえて新たに滋賀アートプラットフォーム事業を計画し、（公財）びわ湖芸術文化財団地域創造部との共催で「びわ湖・アーティスツ・みんぐる」を実施しました。

「びわ湖・アーティスツ・みんぐる」の “みんぐる” とは交じり合うという意味で、知と感性を刺激し合うようなアートと地域の人々との出会いや交流の場を提供していくことを目的とした事業です。今年度は近江鉄道株式会社の協力を得て鉄道とその沿線が会場に決まり、ディレクターに作曲家の野村誠氏を迎え、『ガチャ・コン音楽祭』というタイトルで実施しました。

野村氏は、多くの人に開かれた音楽のあり方をフィールドワークを通して探るという独自の創作スタイルで知られ、これまでも芸術と社会との関係に新領域を切り拓いてこられました。

『ガチャ・コン音楽祭』は、コロナ禍の状況が見通せず、少人数の定員となりましたが、たくさんのフィードバックがありました。その概要を、10 月 31 日（日）に滋賀県立文化産業交流会館で開催した「文化ビジネス塾」での議論からご報告します。

［以降、敬称を略して掲載します。］

第 14 回文化ビジネス塾「地域・アート・鉄道　～何を残し何を始め何をやめるか？」

令和３年 10 月 31 日（日）13:30～16:00 ／滋賀県立文化産業交流会館小劇場

びわ湖・アーティスツ・みんぐる 2021『ガチャ・コン音楽祭』クロージングライブ

出　演｜　井伊 亮子（フルート）、野村 誠（ピアノ）、宮本 妥子（マリンバ）、日撫神社角力踊り保存会

『ガチャ・コン音楽祭』記録動画上映

シンポジウム

登壇者｜　野村 誠（作曲家）、原 久子（アートプロデューサー、大阪電気通信大学教授 ）、山田 和昭（近江鉄道株式会社構造改革推進部部長）

進　行｜　谷 佑一郎（滋賀県県東部地域公共交通支援室）

「ガチャ・コン音楽祭」は、どんな音楽祭なのか

野村｜「ガチャコン音楽祭」は、ただの音楽祭ではなく、アートプロジェクトと紹介しています。芭蕉に自分をなぞらえて考えてみたのですが、芭蕉の作品は、芭蕉が詠んだ俳句と言われていますけど、『奥の細道』を読んでみると、芭蕉の旅の行く先々で、人が集まり、俳諧連歌を行なっています。俳句はそのプロセスから生まれたものです。そう考えると、芭蕉の作品は俳句だけではなく、人が集う場も作っていたのではないか、と思うわけです。僕は、芭蕉の俳句も興味はありますが、芭蕉の旅や旅を描いた『奥の細道』にも惹かれます。

僕にとっては音楽が大事。でも音楽は人と交流する手段の一つでもあり、音楽を作る上で、どんな旅をしたか、どんな出会いがあったかも大切だと思っています。

谷｜原さんは、音楽祭のツアーライブ『無人駅の音楽会』（注１）に参加されましたがいかがでしたか？

原｜あれから２週間たっても、そのときの空気感とか景色とかいろいろなものが記憶に残っています。これは意外とありそうでないのです。私は週に３日程は作品を見る機会があるのですが、次第に頭から消え去るものもある中で、それほど印象深いものでした。

谷｜私も参加して、まさに旅をしながらの音楽会という印象を受けました。近江鉄道の協力があって実現したものですね。

山田｜最初は安全との折り合いがつくか、そして成立するかが心配でした。乗り物はいろいろなところで許容できない人も出てくるの

桜川駅開設 120 周年記念事業プロジェクト代表の西田さん

野村誠さん（プロジェクトディレクター）と宮本妥子さん（打楽器奏者）

で。でも、人との縁、地域との縁が繋がり始めている印象を持ちました。これがあれば行けそうだと思います。沿線の高校を回った際、高校生が「車内放送の駅名ソング（注２）が流れたとき、どよめきが起きた」と言っていました。そうか、なるほど。彼ら彼女らにも刺激になっている、よい効果があったのではと思っています。

原｜ツアーライブが１日だけだったので一過性のイベントに見えてしまいがちですが、プロセスの中で関わった人たちの中に何かモヤモヤとしてあったものを引き出された、そんなことが幾つかの場所で起こり始めて、それが繋がっていく。これまでのタイプのアートプロジェクトとは違うところだと思います。

山田｜今回、思ったのは生音（なまおと）、現地、地域の方の巻き込みが心に響きました。ただのお祭りでなく、次の段階に向かっていくために、人や心を動かすことが大事です。沿線には、音楽コースのある愛知高校もあります。愛知は楽師を多く輩出した渡来系氏族の衣智秦氏が活躍した場所。また、you tube 配信で二次体験された人が、次はライブで聴きたいと繋がればと思いました。

野村｜準備中はコロナの感染状況を見守る日々でしたが、たとえ、コンサートの本番ができなかったとしても、準備の段階で人と出会い、生まれた関係性はなくなりません。今回は、音楽祭と並行して、地域コーディネーター“ぐるぐる”育成講座（注３）を行いました。そこから新しいネットワークが生まれていくことを期待しています。

イベントは終わっても人の繋がりは続く、今後どう展開していくか

原｜地域にこういう活動が生まれるのは、エリアの付加価値が上がっていくこと。異なる領域の人たちが音楽を通して話すことができたり、地域の文化資源を通してみんなで語り合うことで、これまではっきりと明確になっていなかったものが表に浮かび上がってくる。そして、それが地域に還元されて行くのではないかと考えます。

山田｜付加価値が上がるとは地域のブランドが上がるという言い方もあるかもしれません。パリの地下鉄に行くとあちこちで大道芸人が音楽をやっています。あれはオーディションで選ばれているということを知っていますか？手をかけて、質も上げて、それで結果的に居心地の良い、文化の香りが高い地域を作っていくということがブランドに繋がっていく。あとはアートとポップの扱いです。商業的なデザインになっていくのか。芸術の領域に留まるのかというところで、ビジネスとのせめぎ合いが出てくるので、皆さんの思いを紡ぎながらやっていくところかと思います。

野村｜今回は少しディレクターが目立ってしまったのが反省点です。もっと滋賀県をリサーチして人と出会い、いろいろ人が関われる仕組みを作っていきます。もっと若手のアーティストとも出会っていきたい。滋賀には相互作用、“みんぐる”を求めているアーティストがたくさんいると感じました。また、地域の人にも出演いただいてすごく良かったです。今回は積極的な男性がご出演くださいましたので、地域の魅力ある女性も紹介していきたいと考えています。手応えのあった１年目だったと思います。

（注１）ツアーライブ『無人駅の音楽会』

『ガチャ・コン音楽祭』のプログラム。近江鉄道「八日市駅」～「水口城南駅」間を出演者とともに行ったり来たり、電車を使ったツアー型ライブ。無人駅ホームとその周辺がライブ会場になり、電車の音、生活の音、土地の音が交ざり合った、その場でしか体験できない音楽をお聴きいただきました。
出演｜野村誠、宮本妥子（打楽器奏者）、水口ばやし八妙会

（注２）車内放送の駅名ソング

『ガチャ・コン音楽祭』のプログラム「車内放送歌合戦」のこと。10 月１日～ 31 日の１か月間、近江鉄道 900 形の車内放送に、海外からの参加を含む個性的なアーティストや地元の少年少女合唱団による駅名ソングを流しました。

（注３）地域コーディネーター“ぐるぐる”育成講座

“ぐるぐる”メンバーが当日運営をサポート

『ガチャ・コン音楽祭』では、並行して地域の魅力や文化を掘り下げ、人・出来事・場をつなぐ仕組みを学ぶ講座を開催。受講者の中から地域コーディネーター“ぐるぐる”の活動が始まり、制作サポートやガイドパンフレットの作成、当日運営などに参加し、『ガチャ・コン音楽祭』を支えました。

ガチャ・コン音楽祭 クロージングライブ in 文化産業交流会館

近江鉄道で展開した屋外ライブ等をホールで再演。映画サントラのコンサートのようにプロジェクトを振り返りました。音楽祭で縁のあった「江州音頭」「水口ばやし」や、河辺の森駅周辺を“ぐるぐる”とリサーチして作った曲に加え、会場の米原市に伝わる「角力甚句」など全７曲を野村氏のアレンジで演奏。滋賀の郷土芸能のメロディの美しさを再発見する演奏会となりました。
出演｜井伊亮子（フルート）、野村誠（ピアノ）、宮本妥子（マリンバ、打楽器）

文化経済サロン①　令和３年９月９日（木）／文化産業交流会館第１会議室

近江の仏像を伝える ー新・琵琶湖文化館の目指すもの

講師｜髙梨純次氏
公益財団法人秀明文化財団理事
文化・経済フォーラム滋賀幹事

滋賀県には、多くの国宝や重要文化財に指定される文化財が伝えられています。こうした文化財の保存・活用の目的で開館した滋賀県立琵琶湖文化館が平成 20 年に閉館してしばらくたちましたが、いま改めて、新･琵琶湖文化館の再建計画が具体化しています。

滋賀県立琵琶湖文化館および近代美術館で、近江の仏像に関する展覧会の企画や調査・研究に 30 年以上にわたって携わってきた第一人者で、滋賀県が設置する懇話会の委員長として琵琶湖文化館の機能継承のあり方を検討してきた髙梨純次氏に、近江の仏像の特徴と、今後の課題についてお話しを伺いました。

令和 2 年に県が出している資料によると、滋賀県には国の指定の重要文化財、国宝も含めて美術工芸品が 637 点ほどあるそうです。うち彫刻が 379 点。約 6 割が仏像、神像で非常に占める割合が高い。滋賀県、近江国の仏像というのは、最初から非常に優れた仏像がつくられることが、ある意味約束されていました。なぜかというと、官営工房と呼ばれる、その当時律令国家の最新のハイテク機関みたいなところが関与をしてつくっていくわけです。紫香楽宮関係遺跡の発掘調査の中でわかってきました。

近江国の仏像は、研究者の注目を集めるところです。また、井上靖さんや白洲正子さんといった文学者が、美しい文章で近江国の仏像について称賛しています。とりわけ、地域社会で仏様が守られていることの感動が表されています。滋賀県では延暦寺、三井寺、石山寺という大きな本山級のお寺にたくさん伝えられている一方、村のお堂に祀られていることも非常に多いのが特徴です。しかし、地域社会のありようが変貌し、地域の仏像を守れなくなっています。また最近は、自然災害も厳しくなってきたり、市町村の合併で 1 つの自治体でカバーされる範囲が非常に広くなり、目が行き届きにくくなっています。従来のように、地域で仏像を守るお手伝いも必要でしょう。

琵琶湖文化館は、昭和 36 年（1961 年）に開館し、昭和 51 年（1976 年）、重要文化財の公開に関わる勧告承認出品館になります。この館は国立博物館に準ずる公立施設として、全国で 10 館しか指定されていません。当時の館長以下職員の功績も大きいのですが、やはり近江国の文化財の豊富さが全国的に貴重な立ち位置にあったということです。昨年、新・琵琶湖文化館建設の骨子が提出されました。厳しい環境にある近江の貴重な仏像を地域で伝えるお手伝いや、施設の中で保存し活用していく役割が求められています。失われようとしている優れた近江文化遺産を損なうことなく守り伝えることが、新しい館の一番の使命であり、責務です。

文化経済サロン②　令和３年１２月１７日（金）／びわ湖ホール研修室

コロナ禍のメセナ活動～ロームが大切にしてきた思い～

講師｜竹内善行氏
ローム株式会社メセナ推進室長
公益財団法人ローム ミュージック
ファンデーション事務局長

公益社団法人企業メセナ協議会が実施した 2020 年度メセナ活動実態調査によると、コロナの影響を受けていると回答した企業、財団は 80% 以上。具体的には、自主もしくは支援先プログラムの開催中止、延期が最も多いという結果が報告されました。

世界的な半導体メーカー・ローム株式会社は、30 年にわたり奨学援助等で多くの音楽家を育成し、日本の音楽文化の発展をリードしてきた企業としても知られます。コロナ禍による環境の激変でメセナ活動の変化も予想されるなか、ロームの活動方針についてお話を伺いました。

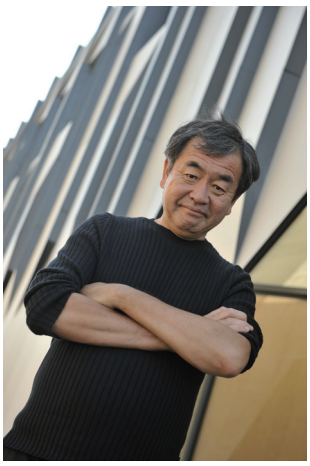
ロームが取り組む音楽文化支援は、音楽を学ぶ学生を支援する活動（音楽家の育成）と、音楽をより身近にする普及活動（聴衆の拡大）の 2 つが大きな柱です。活動は継続的な実施が重要だと考えています。これには音楽家への道の大変さを知るローム創業者の佐藤研一郎（1931～2020 年）の深い思いが反映されています。

佐藤はヴァイオリニストの父を持ち、幼い頃から音楽に親しみピアニストを志望しますが思うような結果が残せず、1958 年、大学で研究した技術を活かして抵抗器メーカーを創業し、音楽とは別の道に進みました。しかし、音楽を愛する気持ちも持ち続け、1991 年にローム ミュージック ファンデーション（RMF）を設立し、音楽文化の普及と発展に力を注ぎます。

2021 年度までに支援した奨学生は 507 名。奨学生は国内外の音楽界で目覚ましい活躍をしています。また、これまで関わった音楽家 4650 人には、「ローム ミュージック フレンズ」として、共に多くの人に音楽を届ける仲間になっていただいています。

コロナ禍で昨年度は主催、共催事業は中止。支援する公演も中止が相次ぎました。コロナ禍対応の単発的な取り組みでなく、今後も継続して実施できる事業を検討し、どんな状況でも音楽を多くの方に届け、音楽家に演奏してもらう環境づくりが必要だと今年度からオンライン配信を積極的に取り入れました。クラシック専門ストリーミングサービスにチャンネルを開設し、公演開催と同時のオンライン配信を実施。一方で配信だから楽しめるコンテンツも作成し、京都の名所と音楽を結んで新たな音楽ファンの開拓に取り組みました。またコロナ禍の活動制限で、精神的にも音楽家が苦難に直面していることから、交流、情報交換の場となっていた奨学生の認定式や報告会をオンラインで開催するなど、世界中にいるフレンズの繋がりの支援もしています。今後は、良い企画、音楽を地域に縛られず多くの方々に展開したいと計画しています。そして、われわれの一番の財産はローム ミュージック フレンズです。彼らと共に音楽を届け、また次の若い音楽家を育成し、佐藤研一郎の思いをしっかり受け継ぎながら音楽文化の普及と発展をさらに図っていきます。

2022 年文化・経済フォーラム滋賀 講演会



木の国・湖の国
淡海のまちづくり

隈研吾氏
（建築家、東京大学特別教授・名誉教授）

世界的建築家で、2021 年「世界で最も影響力のある 100 人」に選ばれた隈研吾氏を講師にお迎えし、滋賀の未来に向けたメッセージをお聴きします。

Photo (c) J.C. Carbonne

びわ湖ホール声楽アンサンブル演奏会

ソプラノ	栗原未和
メゾソプラノ	森季子
テノール	島影聖人
バリトン	五島真澄

ピアノ　小林千夏

厳しいオーディションを経て選ばれた声楽家により構成されるびわ湖ホール専属の声楽アンサンブルの公演です。ゆっくりお楽しみください。

令和４年（2022 年）
2 月 12 日（土）13 時 30 分開演（13 時開場）
会場　びわ湖ホール小ホール

入場無料　**全席自由**　**定員 300 名**

事前の申し込みが必要です。定員になり次第締切になります。
お申込み方法はウエブサイト、チラシをご覧ください。

申込受付　会員　12 月 22 日（水）～
一般　1 月 22 日（水）～

プログラム

13:30～14:00　びわ湖ホール声楽アンサンブル演奏会
14:20～14:40　「2021 文化で滋賀を元気に！賞」表彰式
15:00～16:30　隈研吾氏講演会

ご入場の際は、新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします。体調がすぐれない方はご来場をお控えください。マスクの着用、手指消毒、検温にご協力をお願いいたします。

ホール公演では、補聴器等を使用されている方の聞こえを支援する設備をご利用いただけます テレコイル機能のついた補聴器や人工内耳を使用されている方は、テレコイルモードに切り替えてお聞きください。

第 12 回総会を行います

日時：令和 4 年（2022 年）2 月 12 日（土）
　　16:50～17:20
会場：びわ湖ホール　3F 研修室
議事
・令和 3 年度事業報告及び収支決算
・令和 4 年度事業計画及び収支予算
他

令和 4 年度会員継続のお願い

文化・経済フォーラム滋賀は、「文化で滋賀を元気に！」を合言葉に発足以来、会員の皆さまのアイデアとネットワークを活かして滋賀の未来を考える事業に取り組んでいます。活動は、皆さまの会費で運営されています。１月は会員継続手続きの月です。ご案内を郵送させていただいておりますので、令和 4 年度におかれましても、ぜひとも引き続き会員をご継続いただき、「文化で滋賀を元気に！」する活動にご参画いただきますようお願い申し上げます。

年会費

個人・団体会員	一口	5,000 円
法人会員	一口	20,000 円

文化・経済フォーラム滋賀　第 1 回～第 11 回総会・講演会の記録、提言

＜年＞	＜総会・参加人数＞		＜講演会 講師・参加人数＞		
H23(2011)	1 回	163 人	鷲田　清一	大阪大学総長	163 人
H24(2012)	2 回	147 人	大原謙一郎	大原美術館理事長	147 人
H25(2013)	3 回	112 人	蓑　豊	兵庫県立美術館長	230 人
H26(2014)	4 回	82 人	田村　孝子	グランシップ館長	107 人
H27(2015)	5 回	88 人	姫野カオルコ	150 回直木賞作家	307 人
H28(2016)	6 回	98 人	山極　壽一	京都大学総長	253 人
H29(2017)	7 回	79 人	津田　和明	サントリー元副社長	113 人
H30(2018)	8 回	86 人	小林　徹	オプテックス会長	117 人
R 1(2019)	9 回	56 人	北川フラム	アートディレクター	123 人
R 2(2020)	10 回	52 人	澤田　康彦	前「暮しの手帖」編集長	177 人
R 3(2021)	11 回	36 人	養老　孟司	東京大学名誉教授	677 人

＊敬称略、役職当時

＜提言タイトル＞

H24(2012)	文化ビジネスの開発で滋賀の文化と経済に新展開を
H25(2013)	文化・芸術・ビジネスの見本市としての国民文化祭へ
H26(2014)	滋賀の文化を発信する国民文化祭を早期に、 スポーツイベントと連携した開催へ
H27(2015)	自然・歴史・暮らしが統合された地「近江」の発信を ～“近江遺産”“近江八百八景”から日本遺産そして世界遺産へ～
H28(2016)	新生美術館計画の実現と滋賀の魅力の発見・発信へ
H29(2017)	世界遺産、無形文化遺産、世界農業遺産の登録等への取組みを ～地域の文化遺産を見直し、グローバルな評価へ～
H30(2018)	地域文化を育む、新たな観光を創造する
R 1(2019)	アーティストと地域をつなぎ、新たな文化を育む
R 2(2020)	文化で滋賀を元気に！多様な人材を育む地域活動の推進
R 3(2021)	アートを地域のプラットフォームに ～文化と経済の連携を深める新しい視点～

[発行・問合せ] 文化・経済フォーラム滋賀　〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 15-1 びわ湖ホール内
電話：077-523-7146　FAX：077-523-7147　電子メール　bunka-keizai@biwako-arts.or.jp
https://www.biwako-arts.or.jp/rd/bunkakeizai/